



NO.23 令和8年4月1日

かけはし

編集

(広報委員会)

赤池、渡辺、菊川

原口、藤巻、中村

事務局

所沢市こども未来部

青少年課

TEL 2998-9103



「ルールを守った安全な自転車の通行」を

近年、自転車関連の交通事故件数は横ばいで、自転車乗用中の死亡・重症事故の約4分の3は自転車の側にも法令違反が認められています。このような中、令和8年4月1日より改正道路交通法が施行され、自転車の交通違反について、「青切符」といわれる交通違反通告制度が導入されました。求められているのは「ルールを守った安全な自転車の通行」です。どのようなことに注意する必要がありますのでしょうか。

自転車は「車両」の間、車道の左側通行が原則

自転車は自動車やバイクと同じ「車両」の間で、「軽車両」といわれます。このため、歩道や歩行者用路側帯と車道が区別されている道路を通行する時は、車道を通らなければなりません。

また、歩行者は右側通行が原則ですが、自転車は道路の左側端に寄って通行しなければなりません。自転車は道路の右側を通行する

と逆走となり、交通違反になります。これらの違反は「通行区分違反」の反則行為とされ、16歳以上の人は6千円の反則金を納付しなければなりません。原則として指導警告が行われます。なお、「酒酔い運転」や「酒気帯び運転」、「妨害運転」、「携帯電話使用等（交通の危険）」といった「重大な違反」の場合は、これまでと同様に刑事手続きが行われます。

自転車安全利用五則

- 1 車道が原則、左側を通行
歩道は例外、歩行者を優先
- 2 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- 3 夜間はライトを点灯
- 4 飲酒運転は禁止
- 5 ヘルメットを着用

自転車歩道通行できる場合は限られている

自転車は車道の左側端を通行するのが原則ですが、道路標識・標示で歩道通行できるとされている時や、13歳未満の子どもと70歳以上の高齢者、身体に一定の障害のある人は、自転車で歩道を通行することができます。また、道路工事や駐車車両が続いているなどで車道の左側を通行するのが難しい時や車道を通行すると事故の危険がある時には、安全に通行するために自転車が歩道を通行するのはやむを得ないとされます。

自転車が歩道を通行できる場合、自転車は歩道の真ん中から車道寄りの部分を徐行して通らなければなりません。「徐行」とは、すぐに止まれる速度で通行することです。

これらのほか、交差点での安全確認、夜間のライト点灯、飲酒運転の禁止、ヘルメットの着用といった「自転車安全利用五則」を守って自転車を利用することが大事です。

〈警察庁交通局令和7年9月公表「自転車を安全・安心に利用するために」を参照して執筆しました。〉
(赤池)



山口地区は担当地区が山口小、椿峰小、泉小で、所沢市南西部に位置しています。山口地区では推進員の活動として、年に一度夏休み前の時期に地区内の店舗に伺い、子どもたちの様子などについてのアンケート・聞き取り調査を実施しています。小中学生に限らずですが、ゴミの放置や万引きなどが多くの店舗で見られているようです。また、ドラッグストアの方からは、ごく稀に子どもが自分で服用するために風邪薬や咳止めなどを購入しに来ることがあり、子どもたちの医薬品の乱用(オーバードーズ)についても心配している声がありました。購入の際には、用途の確認や使用方法についての説明をきちんと行い、興味本位で試してみるということがないように店舗側も注意して関わって来ていました。学校や家庭では見えない部分で、各店舗の方々が子どもたちの行動を見守ってください

ついでに、アンケート調査を通して改めて感じています。調査結果については各校に提出し、夏休み前に子どもたちへの指導や保護者会で親御さんにも周知していただくなどしており、地域の声が教育の現場にも届くよう連携を取っています。推進員としても、夏休み中の夜間に公園や店舗などのパトロールを実施しています。

また、地区内にあることも食堂『マルハチ』主催で、昨年10月にハロウィンイベントが行われました。たくさんのおもたが参加し、仮装をしたりビンゴや射的などのゲームを楽しんでいました。

全国的にも最近増えていることも食堂ですが、マルハチは子どもたちが安心して過ごせる場所としてはもちろん、地域の人達との大切な交流の場にもなっています。人との繋がりが希薄になってきている現代社会において、子どもから大人まで繋がりを感ぜられる場所があることに感謝して過ごしていきたいと思っています。



イベントの様子

令和7年度 活動アピール



◆視察研修

10月21日(火)、視察研修として、社会福祉法人同仁学院「あいの実」に伺いました。同仁学院「あいの実」は、日高市にある児童養護施設であり、さまざまな家庭の事情で養護を必要とする子どもたちを預かり、養育しています。

また、敷地内にある児童家庭支援センター「シャローム」は地域児童を対象として、家庭からの相談を受けて、支援しています。

私たち推進員としては、身近な声掛けをし続けること、普段からコミュニケーションを取り続けることが、子どもたちにとって大切だということ学びました。



同仁学院「あいの実」の施設を見学

◆「家庭の日」推進事業 青少年・明日へのメッセージ 作文表彰式

優良青少年及び青少年健全育成
成功労表彰式に協力

毎年、所沢市と青少年育成所沢市民会議の共催で、「家庭の日」推進事業「青少年・明日へのメッセージ」作文の募集、青少年の健全育成に優れた実績のある個人団体の表彰を行っています。今年度作文は、小学生95点、中学生315点、計410点の応募がありました。

当協議会では、2月7日(土)に新所沢まちづくりセンターにて行われた表彰式の運営に協力しました。

青少年健全育成成功労者として、当協議会からも2名表彰されました。また、今年度は2名のジュニア推進員が表彰式の協力をしてくれました。

◆青少年の被害・非行防止 (7月)／健全育成(11月)街頭啓発キャンペーンに協力

次代を担う青少年が、心身共に健やかに成長することを願い、7月12日(土)及び11月8日(土)に、所沢駅周辺で計3200組の啓発物品を市民に配布しました。
両日とも100名を超える

方々が参加し、計4名のジュニア推進員が運営に協力してくれました(所沢市・青少年育成所沢市民会議共催)。



「家庭の日」作文表彰式



街頭啓発キャンペーン



本の紹介

『ある星の汽車』

森洋子／作

福音館書店

今回ご紹介するのは、絵本『ある星の汽車』です。

広い大地を汽車が走っています。汽車の乗客は一組の人間の親子と動物たち。イリオモテヤマネコや日本のトキもいます。

車掌がそと声をかけたモーターシャスドローは汽車が

止まると降りていきました。駅名は「1681」とあります。汽車は走り続けます。「1800」静かに汽車が止まるとブルーバックが降りていきました。汽車が止まるたびに降りていきます。「1844」オオウミガラス。「1938」シヨンプルクヅカ。ホツキョクグマがつぶやきました。「そろそろ私も降りなくちゃいけないのかもしれない」汽車は遠い未来に向かって走ってゆきます。

駅の数字が示す意味を知った時、この絵本が伝えようとする深さを感じる一冊です。
(菊川)



編集後記



窮屈に感じるルールも命を守るためにあるので、守ってほしいですね。

見えない多くの努力によって、子どもが守られていることに感謝し、地域全体で温かく見守っていきましょう。(中村)